

Press Release

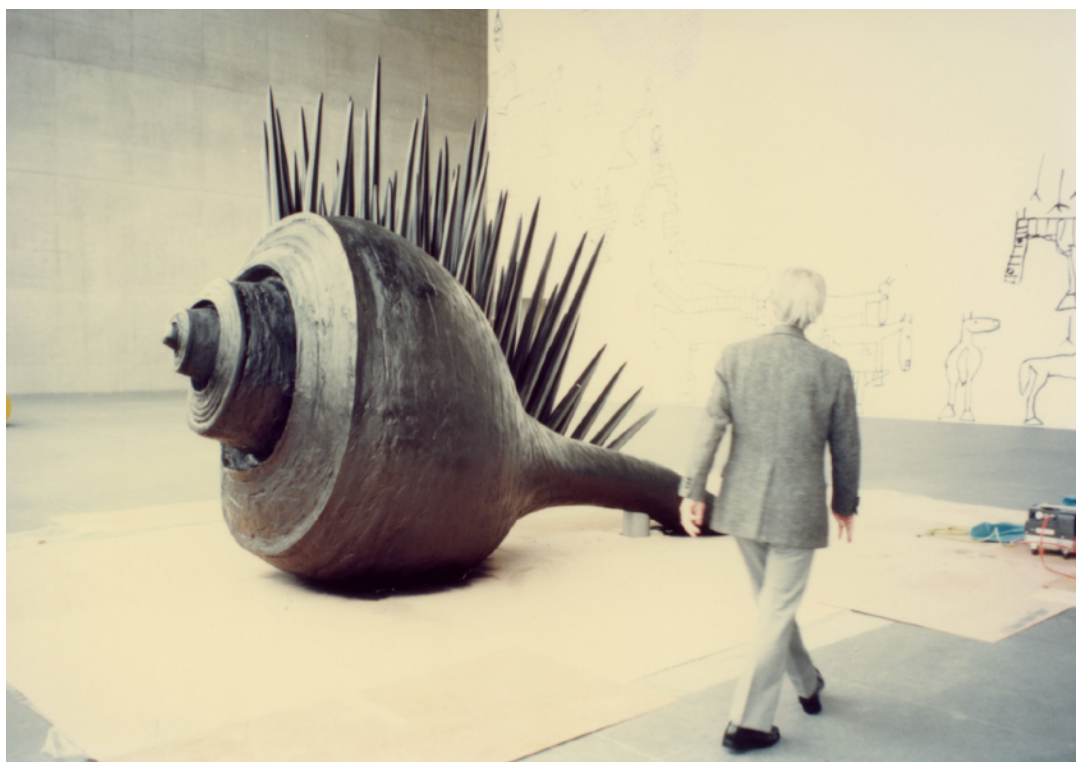
報道各位

2021年10月27日

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ 美術振興財団

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 開館30周年記念イベントのお知らせ

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（MIMOCA）は、11月23日（火・祝）に開館30周年を迎えます。コロナ感染症拡大防止のため、ゲートプラザや館内での大々的な催物は開催を見送りますが、日頃の感謝を込めて、ささやかながら記念イベントを実施いたします。プレス関係の皆様には周知いただきたく、お願い申し上げます。



《シェルの歌》設置の立ち合いをする猪熊弦一郎

[お問い合わせ先]
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
担当：奥本末世
〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1
Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766
www.mimoca.org E-mail. press@mimoca.org



無料開館

30周年を記念して、本年は特別に3日間無料開館いたします。
ただし混雑を避けるため、期間中は整理券を発行し、人数制限を行う可能性があります。

｜ 期間 ｜ 2021年11月20日(土)、21日(日)、23日(火・祝)
各日10時～18時(最終入館17時半)

ミュージアムショップ30周年記念グッズ販売

開館30周年を記念したポストカードやチョコレートなど、オリジナルミュージアムグッズを開発。

なお無料開館の期間中、ミュージアムショップの一部商品を割引にしてゲートプラザにて販売いたします。同時にウェブショップでもセール販売を行います。



チョコレートパッケージと個包装
(開発中のイメージ)

記念冊子発行

開館30周年を機に初心にかえり、当美術館設立の経緯や猪熊弦一郎が当館に託した思いをまとめた冊子を製作し、記念イベントの来館者に無料配布いたします。

｜ タイトル ｜ 『MIMOCA開館三〇周年 どこにもない美術館をめざして』
｜ 著者 ｜ 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 館長 長原孝弘

「猪熊先生をかこう！」作品展示

美術館の記念すべきワークショップ第1弾は「猪熊先生をかこう！」スケッチ大会(1991年)でした。

100人以上の子どもが参加し、モデルの猪熊から指導を受けながらクレヨンで大きく伸び伸びと猪熊の顔を描きました。その30年前の子どもたちの作品およそ170点を、開館記念にあわせて造形スタジオで公開します。



｜ 展示期間 ｜ 2021年11月20日(土)～2022年1月末予定
｜ 会場 ｜ 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 2階造形スタジオ
｜ 観覧料 ｜ 無料

まちのシュール963 プロデュース MIMOCAマルシェ

日時：2021年11月27日（土）
10:00-15:00 ※商品無くなり次第終了
会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ゲートプラザ

カフェMIMOCAを運営している“まちのシュール”監修によるマルシェを開催します。
地元・香川の食品や雑貨を販売するお店を集めます。
早朝には「いのくま体操」も開催し、身体を動かし、ゲートプラザでの滞在を楽しんでもらいます。



過去のマルシェの様子

プラスMIMOCAとは

「心の病院」として、人々の明日への活力を与える場所として、美しいものや表現に出会うことで新しい交流と価値を見出すプログラムを提供する事業です。
人々の暮らしの中にMIMOCAがプラスされていくことを目指します。

期間中の展覧会情報

企画展「藤島武二と猪熊弦一郎展 サンプリシテとシンプル」

【概要】

猪熊弦一郎の生涯の師である藤島武二と猪熊の画業に焦点を当てた展覧会。
藤島と猪熊の画風は異なりますが、ともに重視していたことが「単純化」でした。
それぞれ「サンプリシテ」、「シンプル」と言い、複雑なものをいかに簡潔に表すか、描こうとしている本質を表すためには何を取り除いて何を残すか、残したものをどのように組み立てて描くかを常に考えながら制作に取り組んでいます。
本展では二人の初期から晩年までの作品をご覧ください。



藤島武二《女の横顔》
1926-27年
ポーラ美術館蔵



猪熊弦一郎《横臥裸子と鳥達》
1991年
©公益財団法人ミモカ美術振興財団

同時開催の常設展「猪熊弦一郎展 デフォルマシオン」

【注】

新型コロナウイルス感染症の拡大など社会情勢に応じて内容の変更および中止する可能性もございますので、予めご了承ください。